

2021(令和3)年1月
創刊号

福祉のしごと ふくしごと

誰もが住み慣れた地域で
安心して住み続けるために

伝えます! 福祉のしごと

- 事業所職員による座談会
福祉の仕事の魅力 ～私が仕事に取り組む理由^{わけ}～
- データでみる世田谷
- 専門員からのメッセージ
- 若者の声 web 対談／介護体験
- 異業種から見た福祉の仕事



世田谷区福祉人材育成・研修センター

福祉の仕事の魅力

～私が仕事に取り組む理由～

区内の事業所の第一線で活躍している方々にお集まりいただき、仕事に就いたきっかけ、専門性、やりがいなどを伺いました。



いちはし な お み
市橋 奈緒美さん

(社会福祉法人康和会 特別養護老人ホーム久我山園 施設長)

ごしま さ な え
五島 早苗さん

(桜新町アーバンクリニック ナースケア・ステーション 管理者)

すぎやま ま き こ
杉山 真生子さん

(社会福祉法人めぐはうす 地域生活支援センターMOTA 施設長)

つじもと お
辻本 きく夫さん

(NPO 法人ソーシャルケア清和会 NPO わかば 理事長)

みやざき ひろし
宮崎 浩さん

(社会福祉法人友愛十字会 友愛園 園長)

うりゅう りつ こ
司会 瓜生 律子

(世田谷区福祉人材育成・研修センター長)

福祉の仕事に就いたきっかけ

瓜生 高齢者や障害者の福祉分野で、日頃から大変お世話になっている皆様に、福祉の仕事の思いや魅力などについて伺います。
はじめに、自己紹介からお願いします。

市橋 子どもの時に見た映画に感動して、人のためになる仕事をしようと思いました。福祉系の大学に進み、障害者施設のボランティア体験の際、人権について考える機会があり、卒業後、障害者の就労支援の草分け的な施設に就職しました。

結婚を機に上京して、知り合いの紹介で現在の久我山園の寮母（介護職員）になり、生活相談員・ケアマネジャー（以下ケアマネ）

を経て10年前に施設長になりました。この道、40年となりました。

五島 私は親の勧めで看護師になり、結婚を機に病院を退職し、義父を在宅で看取りました。その時の医師に誘われ、訪問看護ステーションの立ち上げに関わりました。訪問看護認定看護師を取得し、アーバンクリニックに入り、現在、訪問看護ステーションの管理者をしています。訪問看護の仕事は通算21年になります。

子どもから高齢者まで障害のある方、難病の方、約4割はがんの方たちです。若いがんの方が増え、毎日が勉強です。

宮崎 将来を迷っていた高校生の時に、福祉関係のテレビ番組を見て、自分は身体が丈夫なので人の役に立てると思う、大学で福祉の勉強をしました。卒業後、友愛十字会に入職して35年になります。最初は授産施

設の職業指導員や障害者の入所相談員として障害関係に約10年、その後、老人ホームの相談員や施設長など高齢者福祉の分野に20年以上携わり、3年前から身体障害の方の入所施設友愛園の施設長をしています。

杉山 バブル終わりごろ大学の国際学科を卒業し、金融機関に就職しましたが、数年後に退職して、フランスに1年ほど滞在しました。その時に自分が外国人としてマイノリティの体験をしたことから帰国後、思うところがあり専門学校で精神疾患について学び、精神保健福祉士の資格を取りました。現在、精神障害の方の支援を行う地域生活支援センターMOTAの施設長をしています。この分野で約20年になります。

辻本 大学の理工学部出身で高校教師、自治体の公害関係の仕事やフランス語の翻訳などを行っていました。公害の仕事で、被害者は常に社会的弱者ということに気づきました。福祉の

仕事も社会的立場の弱い人に寄り添うことは共通で、同居人が訪問介護等の事業に関わっていて、福祉用具の仕事を手伝ううちに、福祉の仕事に興味を持ちまし

た。今は居宅介護支援、訪問介護、福祉用具、障害者在宅サービス事業を運営するNPOわかばの代表をしています。

資格取得の意味

瓜生 人の役に立ちたいという思いが仕事の原点で、原動力となり、看護師や社会福祉士、ケアマネなどの資格を取られていますね。私は法学部出身で区役所に入り、初めの職場が生活保護のケースワーカーで、長年、福祉領域で仕事をしていて、資格が必要と思い、ケアマネや社会福祉士の資格を取りました。資格について、皆様はどのようにお考えですか。

五島 電話相談などで資格がないと言つと、「資格のある人に代わって」と言われた職員がいて、やっていることは変わらないのに資格があると、相手に安心感を与えることができるようになりました。より深く知識を得て、専門的に勉強したいと考え、認定訪問看護師の資格を取りました。

杉山 資格は必要最低限の共通言語として、仕事に必要ですね。精神科クリニックや作業所などでボランティアをしながら専門学校に通っていたので、実践と資格の勉強がリンクしておもしろかったです。

辻本 制度全体から自分の仕事の位置づけや意味を学



辻本 きく夫さん

制度改正などによる 仕事の变化

ぶため、社会福祉士や介護福祉士、ケアマネ、福祉用具専門相談員、住環境コーディネーターを取りました。一回で合格しようと必死で勉強しました。今では介護福祉士は事業所の加算要件となり、資格を取る実益も出てきていますね。

宮崎 勉強して初めて資格の意味がよくわかりました。仕事と関連して学べましたが、働きながら取るのは大変で、合格した時は本当にうれしかったです。

市橋 資格取得のために、仲間と勉強することでお互いに刺激しあい、また、スクーリングは情報交換や意見交換を行った貴重な時間でした。資格を取ってから視野が広がり、仕事にさらに充実したように思います。

ぶため、社会福祉士や介護福祉士、ケアマネ、福祉用具専門相談員、住環境コーディネーターを取りました。一回で合格しようと必死で勉強しました。今では介護福祉士は事業所の加算要件となり、資格を取る実益も出てきていますね。

瓜生 介護保険法や障害者総合支援法の施行や改正で、仕事はどのように変わりましたか。

市橋 高齢者介護を始めたころ、特養入所者は寝かされたままで、痩せ細っていました。今は平均年齢は高くなっていますが、自然体でつやもあり、きれいです。リハビリの充実、福祉用具や介護ベッドの機能も向上し、この40年で介護技術も大きく進歩しました。介護保険制度ができた時、ケアプラン作成方法をいろいろな職種と学びあったのは良い経験です。多職種協働の礎になったと思います。

杉山 2005年に障害者自立支援法ができ、精神障害も福祉分野に入りましたが、制度や対策は遅れていて、やっと公的な支援が充実しつつあると思います。相手の方と言葉でつながる「相談」と「地域づく

り」が仕事の中心です。
宮崎 今、改めて大切にしたいことは、入所されている方々の「自立支援」と「地域連携」です。周囲の方々と役割分担して、重度化防止に取り組み、お一人おひとりをチームで一緒に支えています。当法人では、18年前からISOの品質マネジメントの認証取得を継続し、新たなAI機器等も積極的に導入して、業務の標準化も進められています。

辻本 私が介護サービス

「もっと知りたい、できるようになりたい」と向上心が高く、現在の水準につながったと思います。特に認知症の対応などは、はるかに向上したと自負していま



瓜生 律子

す。介護保険20年の成果ではないでしょうか。一方、訪問介護の支え手となる人材不足は極めて深刻になっています。

五島 訪問看護のすばらしさは自宅での生活の延長で支えることです。病院のよ

うにクリニカルパスのおおりにいかず、一人ひとり症例が違うので、対応はそれぞれ異なり日々勉強です。自宅で亡くなる方は、まだ少なく世田谷区で20%少しですが、在宅看取りが増えていると感じます。

事業者や地域との連携

瓜生 世田谷区では介護サービスネットワーク、訪問看護管理者会、特養施設長会など連携が盛んです。「せたがや福祉区民学会」のように、大学、区民、事業者、行政が実践活動を発表し交流するユニークな学会もあります。地域などでの連携は進んでいますか。

活動はできていませんが、約350事業所が参加し、独自の研修等を実施し、介護サービスの質の向上を目指しています。

五島 訪問看護ステーション管理者会は毎月開催し、医師会やケアマネとは2か月に1回テーマを決めて連絡会を行っています。コロナ禍では、ラインやファックスなどで、感染症対策や物資の調達など、情報交換を常に行っています。

市橋 特養施設長会は横の連携が盛んで、10月に研修センターと共催で、ハローワーク等の協力をいただき、現場職員の座談会、面



五島 早苗さん



杉山 真生子さん

接会などの「おしごとフェア」を行い、多くの方が来場して大盛況でした。就職につながった方も多く成果がありました。

杉山 公的支援が少なかつたこともあり、関係機関と連携することが大切な社会

資源でした。現在は、自立支援協議会の活動や地域生活支援センターと地域の関係機関との連携は進んできていると思います。地域づくりに関係者の連携は欠かせません。

宮崎 「せたがや福祉区民学会」では、仕事の目標を掲げ、取り組み状況や課題を整理し発表しているのので、日常の仕事にスポットが当てられ、働く人たちのやりがいやスキルアップにつながっています。

仕事のやりがいと

福祉を目指す方に伝えたいこと

瓜生 福祉の仕事のやりがいやこれから福祉の仕事を目指す方に、ひと言お願いします。

係者と一緒に考えることも魅力です。自分が不安になった時、先輩たちから教えてもらい、自分の糧に



宮崎 浩さん

なっています。仕事からたくさんの方の勇気がもらえるので、ぜひ、福祉の仕事にきてほしいです。

杉山 厳しい環境で生きてきた人たちに寄り添うことで、その人生を疑似体験でき、それが自分の成長につながり、価値観が広がります。利用者と話すことで、気持ちや考えが通じあった瞬間、喜びを感じるといった職員もいます。利用者の方から「就職した」とか「結婚した」など、良い報告をもらうとうれしいですね。この仕事は終わりがなく、いろいろな方の人生を学び、自分の価値観が更新されていくのがおもしろいです。さまざまな人の人生観や死生観を聞いて、自分の感性で仕事を組み立てていける部分もあります。

市橋 人と人との関わりが希薄な中、人との関わりが怖いという若者が多いようですが、社会福祉士の実習にきた学生の表情が日に日に変わっていくのを目の当たりにします。お年寄り

優しくても何でも教えてくれるので、人を信じる経験ができるようです。人生や対人援助職の登竜門として、高齢者福祉は入りやすいと思います。高齢者にまず触れて欲しいですね。

辻本 ケアマネをやって、十数年になります。経験上、在宅介護はうまくいかない時もありますが、見送るまでの終末期のケアがうまくいった時は充実感が得られます。仕事の重要性を考えると、現在の福祉・介護職の社会的評価は高いと言えませんが、中長期的に見て、福祉・介護職の処遇改善は必ず進むと思います。介護の仕事のおもしろさは、無限大です。先々を心配しないで、「まず、何でもいいからやってみたら…」と言いたいですね。

五島 今までにたくさんの方の看取りをしてきました。自宅で亡くなるためにだけに退院してくる方もいます。ご本人・ご家族から「少しでも住み慣れた我が家で過ごさせてよかった」と言われるとやりがいを感じます。決めるのは利用者者と家族で、訪問看護師は人生の羅針盤として、看護と医療を提供します。そのためにプロフェッショナルとして団結力とチームワークが必要で、患者さんの人生観・死生観に添うことができた時、自分たちも達成感を得られます。生活を支える看護の仕事、特に在宅看護はおもしろいと思います。

瓜生 福祉の仕事は、人間の尊厳を支える重要な価値ある仕事です。研修センターは、誰もが安心して住み慣れた地域に住み続けられるように、福祉の仕事の知識と技術、サービスの質の向上を目指して、福祉の理解、人材確保・育成・定着支援、そして福祉の仕事の社会的地位向上に取り組んでいきます。皆様、今後ともよろしくお願いします。お忙しい中、どうもありがとうございました。

が家で過ごさせてよかった。

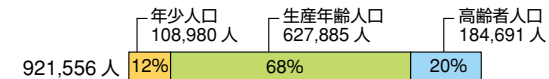
が家です。決めるのは利用者者と家族で、訪問看護師は人生の羅針盤として、看護と医療を提供します。そのためにプロフェッショナルとして団結力とチームワークが必要で、患者さんの人生観・死生観に添うことができた時、自分たちも達成感を得られます。生活を支える看護の仕事、特に在宅看護はおもしろいと思います。

が家です。決めるのは利用者者と家族で、訪問看護師は人生の羅針盤として、看護と医療を提供します。そのためにプロフェッショナルとして団結力とチームワークが必要で、患者さんの人生観・死生観に添うことができた時、自分たちも達成感を得られます。生活を支える看護の仕事、特に在宅看護はおもしろいと思います。

データでみる世田谷

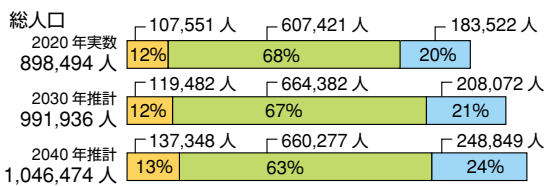
■世田谷区の概要

●2020年4月総人口（外国人を含む）



- 要支援・要介護認定者数（65歳以上） 39,505人
- 認知症高齢者数 23,990人
- 障害者（難病含む 2019年4月） 38,264人

●年齢階層別人口推計（日本人のみ）



世田谷区将来人口推計（平成29年7月）

年齢階層別人口推計では2040年に向け、年少人口は増加傾向が続き、出生数の回復を反映し13%程度になり、生産年齢人口は2032年をピークに63%程度に低下し、高齢者人口は、増加傾向が続き24%となる。

■世田谷区福祉事業所実態調査（抜粋）

●調査期間：令和元年9月17日～10月11日

●調査対象：高齢者・障害者・子ども（区立除く）分野事業所1,589か所
回収831か所（高齢者552、障害者190、子ども145）
回収率52.3%

●職員数：調査回答13,569人（正規職員7,143人、非正規職員6,108人、契約318人）→職員推計総数23,000人

●事業所数（上位5事業）

高 齢 者：居宅介護支援（182）、訪問介護（125）、通所介護（地域密着型含115）、訪問看護（56）、福祉用具（31）

障 害 者：居宅介護・重度訪問介護（80）、相談支援事業所（32）、同行援護（27）、就労継続支援B型（26）、生活介護（22）

●職員の年齢構成

	正規職員	非正規職員
20～40歳代	75.7%	41.7%
50歳代	17.5%	24.9%
60歳代	6.9%	33.3%

●雇用形態

	正規職員	非正規職員
高齢者分野	48.0%	49.3%
障害者分野	37.5%	61.8%

●職員の不足感がある事業所

高齢者分野	障害者分野	子ども分野
61.6%	70.5%	65.5%

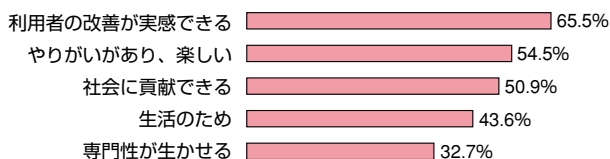
■「福祉の仕事魅力向上・発信」に向けた区内福祉事業所調査（抜粋）（令和2年6月）

調査対象：高齢者・障害者分野の事業所（80か所、回答 55か所）

●福祉の仕事を選んだきっかけ（複数回答）



●福祉の仕事とは（複数回答）



* 調査結果の詳細は研修センターホームページ（<http://www.setagaya-jinzai.jp>）をご覧ください。

専門員からの メッセージ

世田谷区福祉人材育成・研修センターの事業に
さまざまな視点からアドバイスをいただいている専門員から、
福祉の仕事の重要性についてメッセージをいただきました。



なかむら しゅういち
中村 秀一さん

国際医療福祉大学大学院
医療福祉学研究所教授
世田谷区地域保健福祉
審議会会長 等

「介護」という仕事の意義

今回の新型コロナウイルス感染症の蔓延により、医療・介護・福祉に従事している人々が果たしている役割の重要性が世界中で再認識されています。まさに社会の機能を維持していくために、欠かすことのできない存在（エッセンシャルワーカー）なのです。

しかし、わが国では介護の仕事についての理解はまだまだ十分とは言えません。その原因の一つとして、介護福祉士の国家資格が制定されたのが1987年と医療の専門職種と比較すると歴史が浅く、その専門性についての世の中での理解が進んでいないことがあります。

加えて、医療に比べて介護や福祉は「専門性が低くて当然だ」という思い込みが世の中にも、介護や福祉を担う当事者にもあるように思えます。

考えてみると「ウイルスを駆除すればよい」など医療の目標設定は単純です。介護や福祉の仕事は、人々の人生そのものを支える仕事です。あなた自身の人生がそうであるようにその目標は極めて複雑で、ここにこの仕事の価値があるのです。



あげの その よしこ
上之園 佳子さん

日本大学文理学部社会
福祉学科特任教授
世田谷区地域包括支援
センター運営協議会副
委員長 等

自立支援と尊厳を支える仕事

介護保険での介護の理念は、「自立支援」と「尊厳を支えるケア」です。自立支援とは、本来「実行の自立」と「選択の自立」の支援が含まれますが、日常生活動作の自立に重点が置かれたため、2003年の報告書『2015年の高齢者介護～高齢者の尊厳を支えるケアの確立に向けて～』を受け、介護が必要となってもその人らしい生活を自分の意思で選ぶ自立のことを「尊厳を保ち」と介護保険法条文に追加しました。尊厳を支えるケア、本人主体の生活を支えるためには、分野を超えたシステムと地域のフォーマルとインフォーマルな支援や包括的、継続的に協働するチームケアが求められます。これらは地域包括ケアシステムの「地域で自分らしく暮らし続ける」（ノーマライゼーション理念）にもつながっています。

これからの地域共生社会、地域包括ケアシステムでの福祉の仕事は、一人でするのではなく、そこには人が生きること生活することへの多様な価値観と支えあい、専門的視点による支援に触れることのできるワンダーランドが待っています。



すずき としひこ
鈴木 敏彦さん

和泉短期大学児童福祉
学科教授
世田谷区障害者自立支
援協議会会長 等

本人の思いに寄り添う

「私たち抜きに私たちのことを決めないで」(Nothing about us without us)という一節は、「障害者権利条約」成立に向けて、世界の障害当事者が発信したスローガンです。これは、障害者の日々の生活や人生が、家族や支援者など「他者」によって決められてきた「本人不在」の歴史に警告を発するものです。

現在、本人不在をなくすために、「意思決定支援」の実践が障害者支援や認知症介護の分野でスタートしています。「利用者さんはずっと前からご本人なりの思いを発していた。しかし私たちはそのメッセージに気がつかなかった」。これは、重度障害者の意思決定支援に携わる支援者の声です。この支援者は、つい陥りがちな「支援者主体」の支援を徹底的に排し、ご本人の思いに向きあい・寄り添い続けることで、ご本人の充実した暮らしと笑顔をサポートしています。

その人の思いを大切にし、可能性を信じ、寄り添い続けること。これこそが福祉に携わるすべての人にとって求められる姿勢だと思っています。

Web 対談

昭和女子大学人間社会学部福祉社会学科
3年生と指導教授、研修センター職員と
「福祉」について対談を行いました。



●福祉を学ぶきっかけ

小川 福祉は自分にも周りの人にも必要と思い、福祉も学べる高校に進学しました。大学2年の障害児施設でのプレ実習を機に障害福祉を専攻しています。

佃 大学を決める時に、人の役に立つ仕事がしたいと思い、叔母が県の介護福祉士会の会長をやっていた影響もあり、福祉を学ぼうと思いました。

●実習をしての感想

佃 生活リズムを保つにも専門知識をもって、チームアップローチが必要ということを学びました。



つくだ ともみ 朝美さん

小川 障害があっても本人の望む生活を支援し、誰もが自己実現をかなえられる社会を創りたいと思いました。

●周りの友達の様子

小川・佃 1〜2年の時より、授業や実習などを通し福祉の仕事を考える人も増えてきていると思います。

●実習と授業とのギャップ

小川 相談支援センターは、事業所で相談にのるイメージでしたが、自らアウトリーチを行うことや管理者



おがわ まみ 真南さん

は他の職員のマネジメントを行う能力も求められるということを実感しました。

佃 特養ホームの介護職は夜勤とかおむつ交換とか大変とかわれていますが、高齢者に寄り添い良い部分を伸ばし、幸せに毎日が暮らせるよう支援して、やりがいがある仕事と感じました。

●福祉の仕事への思い

佃 介護職は利用者を一番身近で支え、介護経験のある生活相談員は一人ひとりをしっかり支えているので、現場経験はとても大切だと思います。今は高齢者分野で仕事をしようと思っています。

小川 人生と一緒に歩ませてもらい、すごく責任は重いですがやりがいがあります。現場経験が大事だと感じたため、障害者

の通所施設等で経験を積み、将来的には相談支援に携わりたいと考えています。

●福祉の道へのご両親の思い

小川 資格を活かした仕事はすばらしいと、応援してくれています。

佃 人に求められる仕事で待遇も良くなるのではと思っています。

●若い人たちに伝えたいこと

小川 福祉は自分や人のためになり、やりがいがあるので、学んで絶対に損はないので選択肢の一つにしてもらいたいです。

佃 やりたいことを見つけるのは大変だけど、人のために頑張る、人の役に立つ仕事は意義があると考えてもらえるとうれしいです。

●北本教授

仕事をしながら成長していくことは大切で、成長している実感が持てると仕事も続けられます。仕事への励みややりがいを支えていくのが大学のリカレント教育や研修センターの役割だと思います。



きたもと けい 北本 佳子教授

研修センター 皆様、ありがとうございました。

介護 体験

2020年8月に研修センターで行った「小学生親子・中学・高校生夏休み介護体験」(7日間、14回開催)には、定員を超える346名が参加しました。

参加した高校生の声

●「特別養護老人ホームの動画」や、職員の方々の話から大変さより、やりがいや魅力があると思いました。

●介護職は介護だけでなく、いろいろな相談にのるのも大切な仕事だとわかりました。

●「車いす体験」や「介護ベッド体験」では、さまざまなものがバリアフリーで進化していることがわかりました。

●目の前で困っている方がいたら、少しでも手助けできる人になりたいと思いました。

●「高齢者疑似体験」は、すべての人が体験して、身体をうまく動かさない人の気持ちを理解してほしいです。

●将来、ケアをする立場として受ける立場となる上で、今日の体験は価値のあるものとなりました。

●普段の生活が当たり前でないことを知ることができました。進路選択の一つと考えます。



夏休み介護体験

異業種から見た 福祉の仕事

福祉の魅力を発信する「KAiGO PRiDE」プロジェクトを手掛け、全国的に話題を集めたクリエイティブディレクター マンジョット・ベディさんからのメッセージです。

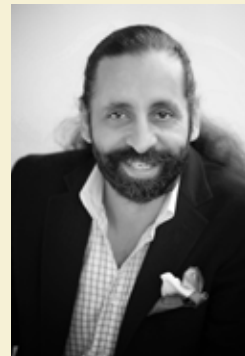
セルフリスペクトが、社会からのリスペクトを作る

介護職の皆さんは自分の仕事の価値を低く考えていると思います。介護の仕事は非常にクリエイティブで、誰もができるという仕事ではありません。とても立派な職業なのに、彼ら自身が自分の仕事の価値をわかっていないのではないかと感じています。そして、日本の社会もケアワーカーがどれだけ素晴らしい仕事をしているのかを理解していない。私は自分が持っているアートやクリエイティブの力を使って、ケアワーカーをサポートしたいという思いで、2019年に【KAiGO PRiDE】というプロジェクトを立ち上げ、「ケアワーカーのブランディング」をしています。若い人たちに介護に興味を持ってもらい、介護の仕事の尊さに気づいて欲しいのです。それと同時に、ケアワーカーの人たちには、自分たちの仕事の価値を理解して、胸を張って仕事をしてもらいたいのです。

人間はみな歳を取ります。歳を取らない人はいません。その時、家族と共に暮らして面倒を見てもらえたら理想的ですが、今の日本では難しくなっています。そうになると、ケアワーカーにお世話になること以外方法はありません。それなのに、社会がケアワーカーの仕事をし

スペクトしないのはとても残念です。それ以上に、彼ら自身が自分の仕事をリスペクトしないことは問題です。

私は真実を伝えたいという思いで【KAiGO PRiDE】の活動をしています。でも、外部の人間がいくらケアワーカーの秘めたる思いを説明してもダメなんです。介護に対するパッションを、介護の魅力を、本人の言葉で発信することが大事なんです。社会からリスペクトされるために必要なのは、自分で自分をリスペクトする「セルフリスペクト」です。自分自身と職業にプライドを持つこと。そうすれば多くの人がきっとこう感じるはずですよ。「人を支える介護の仕事って尊いな」「そんなケアワーカーになりたいな」相手を思いやる心が強くて、優しく、クリエイティブ。介護は尊い仕事です！



マンジョット・ベディ（クリエイティブディレクター、クリエイティブ・ブティック株式会社 just on time 代表取締役社長）

1969年インド・ニューデリー生まれ。17歳で来日。プランニングから演出・撮影・照明まで一貫して手がけ、世界各地で活躍。新しい広告制作のあり方を提唱し、注目されている。

世田谷区福祉人材育成・研修センター

研修センターは、福祉人材の確保・育成・定着支援を総合的に推進しています。福祉の仕事の入門講座やキャリアアップなどのさまざまな相談、専門性を高める研修も行っています。**福祉の仕事のご相談は、研修センターへお寄せください。**



社会福祉法人 世田谷区社会福祉事業団
世田谷区福祉人材育成・研修センター

〒156-0043 東京都世田谷区松原 6-37-10

世田谷区立保健医療福祉総合プラザ 1 階

電話 03-6379-4280 FAX 03-6379-4281

URL <http://www.setagaya-jinzai.jp>

受付時間 月曜日～金曜日 8:30～17:15

アクセス

小田急線「梅ヶ丘」駅北口	徒歩 5分
小田急線「豪徳寺」駅	徒歩 8分
東急世田谷線「山下」駅	徒歩 14分
京王井の頭線「東松原」駅	徒歩 1分
小田急バス「松原」	

